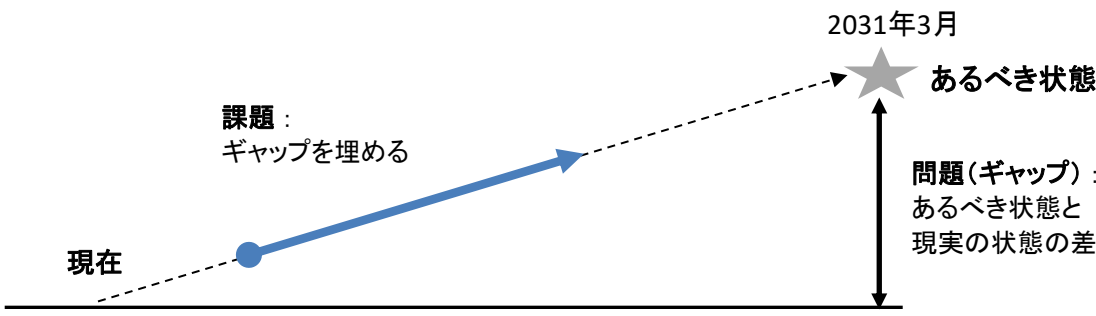


深堀シート

問題（ギャップ）を解消するための解決策をご提案ください。

担当課	商工振興課
前提	 課題： ギャップを埋める 現在 2031年3月 あるべき状態 問題(ギャップ)： あるべき状態と 現実の状態の差
テーマ	大学生を引き寄せるまちへ！地元企業と学生のマッチングを創出したい
あるべき状態	いつまでに：令和12年度 定性的： ・市内企業が「若者に選ばれる企業」として認知される状態を実現 ・市内外の若者が「西尾市ではたらく」という選択肢を前向きにとらえる風土を醸成 ・企業と若者の接点が自然に生まれる仕組みが持続的に機能 なぜ？： 若年人口の減少が加速する中で、地域企業の持続可能性を高めるためには、地元で働く若者を増やす戦略的施策が不可欠である。また、産業の担い手不足が地域経済全体の活力を低下させるため、行政が積極的に介入し、官民連携による仕組みづくりを推進することが必要。
現在の状態	定性的： ・高校卒業後、多くが名古屋圏・県外に進学あるいは就職し、戻ってこない ・市外から西尾市に来る学生・若手社会人が非常に少ない ・若者に市内企業名や事業内容が知られていない 定量的： 大学生インターン受入企業数、参加者数、新卒採用数等を事業者向けアンケートにて調査予定のため現状値不明 原因： ・学生と地元企業の接点が限られ、学生の企業理解低浅い。 ・地元企業のブランディングや情報発信が弱く、認知度が低い。 ・就職イベントが一過性で持続的な関係構築につながっていない。

問題 (ギャップ)	・「進学後に西尾市へ戻らない若者」を「地元での就職やUターンを前向きに考える若者」にする ・「市外から流入する若者がほとんどいない状態」を「県内外の学生が西尾市の企業に興味を持つ状態」にする ・「企業と大学生の接点が少ない状態」を「多様なインターン・イベントを通じて継続的に接点がある状態」にする ・「学生の間で認知度が低い地元企業」を「学生にとって選択肢の一つとして自然に認識される企業」にする ・「新卒採用が充足できていない企業」を「安定的に若手人材を確保できる企業」にする ・「参加学生が限られている合同説明会」を「県内外から多くの学生が集まる魅力的なイベント」にする ・「企業情報が断片的で仕事内容がイメージできない状態」を「職場環境や働き方が具体的に想像できる状態」にする ・「都市部志向が強く西尾市を就職地として見ていない学生」を「西尾市で働くことに意義や魅力を感じる学生」にする
これまでの取組み	高校との連携による職場見学の実施 西尾・碧南合同での企業説明会の実施 西三河6市合同企業説明会の実施 就活ガイドブックの作成・配布
民間事業者等側の 想定メリット	西尾市との継続的なパートナーシップの構築の可能性 他自治体への展開時の実績として活用 若者の就労支援・地域連携の成功事例として営業活動に活用可能 学生向けマーケティングや地域デザインのノウハウの蓄積
民間事業者等に求 める専門性	人材マッチングの知見(大学との連携、若年層採用支援、職業紹介など) イベント企画・運営能力(インターンフェア、キャリアイベント、地域密着型説明会など) プロモーション・ブランディング力(SNS運用、動画制作、広報物の編集・発信など)